



WAE モデリングデーモン (WMD) の構成

WMD は、メモリ内にリアルタイムのネットワークモデルを提供します。DARE は (NIMO および XATP モジュールから) ネットワークの変更を受け取り、これらの変更を含むパッチを WMD に送信します。WMD および DARE の動作の詳細については、[概要](#)の章を参照してください。

DARE、WMD、および XATP モジュールを構成するには、次のトピックを参照してください。

- [NIMO 収集の統合](#)
- [WAE モデリングデーモン \(WMD\) の構成 \(1 ページ\)](#)
- [XTC Agent to Patch モジュールの構成 \(2 ページ\)](#)

WAE モデリングデーモン (WMD) の構成

WMD は、メモリ内のネットワークのほぼリアルタイムの表現 (モデル) を提供して、アプリケーションがそのモデルにアクセスできるようにします。これは、DARE、XTC Agent to Patch モジュール、および NIMO からのスケジュールされたフィードから、変更を取得します。

始める前に

次の情報が手元にあるか、構成されている必要があります。

- 最終ネットワークモデル名
- 設計 RPC
- 継続的なポーリングを使用している場合は、traffic-poll-nimo ネットワークの名前

ステップ 1 エキスパートモードから、`/wae:wae/components/wmd:wmd` に移動し、`[config]` をクリックします。

ステップ 2 `[network-name]` ドロップダウンリストから、最終ネットワークモデルを選択します。

ステップ 3 `[enable]` ドロップダウンリストから `[true]` を選択して WMD を有効化します。

ステップ 4 `[rpc-connection]` をクリックして、設計 RPC 値を入力します。

ステップ5 [app-subscriber-connections] をクリックし、すべての自動化アプリケーション接続のホストとポートの情報を入力します。

ステップ6 [measured-traffic-source] をクリックし、継続的なポーリング情報を入力します。

ステップ7 [dare] をクリックして、次の値を入力します。

- [dare-destination] : 最終ネットワークモデルを選択します。
- [connection-attempts] : 接続が再確立されるまでの再接続の試行回数を入力します。
- [connection-retry-delay] : 接続試行の間隔 (秒単位) を入力します。

ステップ8 (オプション) デマンドのメッシュと推論を有効にするには、[demands] をクリックして次の値を入力します。

- [add-demands] : デマンドを有効にするには、[true] を選択します。有効にすると、WMD は、WMD を使用するすべてのアプリケーションに対してデマンドメッシュとデマンド推論を実行するように設定されます。したがって、継続的なポーラーが WMD を更新すると、WMD はデマンドをトリガーします。
- [demand-mesh-config] : 該当するデマンドメッシュオプションを入力します。フィールドの詳細については、[デマンドメッシュの作成](#)を参照してください。
- [demand-deduction-config] : 該当するデマンドメッシュオプションを入力します。フィールドの詳細については、[デマンド推論](#)を参照してください。

例

WAE CLI (構成モード) の例 :

```
# wae components wmd config network-name <final_model_name> dare dare-destination
<final_model_name>
# wae components wmd config network-name <final_model_name> demands add-demands true
demand-mesh-config dest-equals-source true
```

XTC Agent to Patch モジュールの構成

XTC Agent to Patch (XATP) モジュールは XTC エージェントに接続し、XTC の変更または PCEP/LSP をパッチとして DARE に送信します。構成の一部として、WMD をポイントして最新の WAE モデルを取得する必要があります。

始める前に

次の情報が手元にあるか、構成されている必要があります。

- 最終ネットワークモデル名
- XTC エージェント
- WMD

ステップ 1 エキスパートモードから、`/wae:wae/components/xatp:xatp` に移動し、`[config]` をクリックします。

ステップ 2 `[enable]` ドロップダウンリストから `[true]` を選択して XATP を有効化します。

ステップ 3 `[xtc-agent]` ドロップダウンリストから送信元 XTC エージェントを選択します。

ステップ 4 `[WMD]` をクリックして、次の値を設定します。

- `[host]` : 関連付けられた WMD インスタンスを入力します。
- `[port]` : WMD ポートを入力します。
- `[connection-attempts]` : 接続が失われた場合に、XATP が WMD に再接続を試行する回数を入力します。0 を入力すると、XATP は接続が再確立されるまで再接続を試みます。
- `[connection-retry-delay]` : 接続試行の間隔 (秒単位) を入力します。

ステップ 5 `[dare]` をクリックします。パッチの送信先となる最終ネットワークモデルと、送信元 NIMO を選択します。

例

WAE CLI (構成モード) の例 :

```
# wae components xatp config wmd connection-attempts 0
# wae components xatp config xtc-agent <xtc-agent-name>
# wae components xatp config dare aggregator-network <aggregator-network-name>
# wae components xatp config dare topo-bgpls-xtc-nimo-network
<topo-bgpls-xtc-nimo-network-name>
# wae components xatp config dare pcep-lsp-xtc-nimo-network
<pcep-lsp-xtc-nimo-network-name>
# wae components xatp config enable true
```


翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。